

平成17年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館

(青梅市駒木町1-684 Tel0428-23-6859)

青梅市内にある遺跡の現状 その1

青梅市内の縄文時代の遺跡について、『青梅市史』上巻では成木川・黒沢川流域で22か所、多摩川流域で62か所、霞川流域で37か所、合わせて121か所をとりあげていますが、その他にも特定できない遺跡がたくさんあります。

昭和40年代の半ばから市内で宅地開発等が盛んになり、それまで地下で眠っていた遺跡は、発掘調査によって、あちらこちらで発見されるようになりました。一度発掘調査をしてしまうと、遺跡としての存在はなくなってしまうのが常ですが、調査も無く、青梅市の歴史を変えるような発見に至らず、知らず知らずのうちに消えかけてしまうものの中にはあったことと思います。

今回は、市内の遺跡について、その存亡と特徴を西方面から流域ごとに何回かに分けて記します。

御岳地内には2か所の遺跡があります。多摩川右岸（御岳山側）の舌状台地にある遺跡は神の倉遺跡と呼ばれ、縄文時代ばかりでなく、中世の歴史をも伝えています。調査などはされておらず、そのままの状態ではありますが、遺物の散布は殆どありません。左岸では、御岳郵便局のある段丘上に横尾原遺跡がありましたが、第1次調査を平成11年10月に行ない、平成14年5月には西側の全面発掘を行なって、この遺跡の調査は終了しました。その折数多くの遺物が発見されましたが、発掘以後、段丘の土は道路面まで削られ、地中での遺跡の存在は無くなりました。

沢井地内には5か所の遺跡があります。名前のついた遺跡は横尾子遺跡と大平遺跡があります。横尾子遺跡は現在、ほとんどが畑となっていますが、土器などの遺物は見当たりません。大平遺跡は数度にわたって発掘調査が行われました。JR沢井駅を中心に遺跡のほぼ3分の2が発掘され、残るは青梅線の線路敷き部分のみとなっています。他の3か所は山の中や台地の片隅等、狭い範囲で存在し、発掘調査はされていません。

柚木地内（多摩川の右岸）には、6か所の遺跡があります。名前のついた遺跡は西改戸遺跡と大船遺跡で、残り4か所は小規模の遺跡です。西改戸遺跡は柚木地内の西方に位置し、開発に伴う発掘調査が昭和53年に行なわれました。ここの遺跡からは、須恵器等の遺物ばかりではなく、平安時代の住居跡1か所が見つかり、市内では最も西に位置する平安時代の遺跡であることが分かりました。大船遺跡は平成7年を初回に、平成10年6月までに第5次に至る発掘調査が行われました。宅地開発に伴う取付道路を対象に調査され、これから外れる宅地部分の遺跡は、そのまま地下40cmのところで埋蔵されています。

梅郷地内には5か所遺跡があります。山の神戸遺跡、下稲荷前遺跡、下清水遺跡、中郷原遺跡、そして、的場遺跡です。山の神戸遺跡は山際に位置し、水道タンクの工事をした際、多量の縄文中期の土器や石器が発見されました。現在は山林となっており、遺物の発見は難しくなっています。下稲荷前遺跡は西中学校がある場所

です。地元の人により、耕作の際や表面採集で、多くの遺物が採集されましたが、西中学校建設の際、遺跡の中心部はほとんど無くなり、今は南端部分のみが遺跡として存在しています。下清水遺跡は、平成13年8月の第6次発掘調査まで、小規模ながら調査が行なわれ、縄文時代早期後半の土器群や中期前半の住居跡、さらに、早期の野島式土器や数多くの中期の土器が発見されました。市立第五小学校の西方一帯は中郷原遺跡と呼ばれ、大型打製石斧が頻りに拾われましたが、遺跡として中心となる場所は見つかっていません。中郷原台地の東端に位置するのが的場遺跡です。今も若干の畑は残っていますが、範囲とされる地域は宅地等が古くから建っており、遺跡としては無いに等しい状況です。一時、段下の竹藪の中で多くの打製石斧が見つかりますが、遺構としては認め難い状況です。

再び左岸に移り、沢井地内の東方は二俣尾の地域です。ここには10か所の遺跡があり、名前のついた主な遺跡としては桜橋原遺跡、上生原遺跡、中宿遺跡、下宿遺跡、滝振畑遺跡があります。桜橋原遺跡は、通称「青梅マラソンの心臓破りの坂」と称される坂の真上の段丘上にあります。数回の遺跡調査がなされ、遺構の状態は把握できましたが、全面発掘には至らず、現在でも土器片や平安時代の須恵器などが見つかります。中宿遺跡と上生原遺跡は道を隔てて隣り合った状況になっており、中宿遺跡においては、平成13年2月に開発による発掘調査が初めて行なわれ、喜代沢遺跡に次ぐ市内で第2番目の縄文時代晩期前半の遺跡であることが判明しました。ここでは、土坑や配石遺構、住居跡1か所のほか、遺物については縄文時代晩期の安行Ⅲb～Ⅲcの異形土器（双口土器）の発見が目を引きまします。上生原遺跡は平成13年10月に調査が行なわれ、住居跡4か所のほか、多量の遺物が出土しました。特に石剣と土製耳飾、そして小型注口土器の発見が特筆されるものとなっています。下宿遺跡では、遺跡調査は特になされてはいませんが、地元の方が畑から縄文時代中期の土器を発見しています。滝振畑遺跡は平成11年2月の第4次発掘まで部分的に調査され、縄文時代早期、前期、中期の遺跡として確認されています。この他に、峰之出遺跡、西城遺跡と命名されていない遺跡（3か所）がありますが、共に調査は行なわれていません（T-18遺跡は除く）。

今回は、多摩川に架かる神代橋から西側（上流）を紹介しました。市内では1か所のみとされていた縄文時代晩期の遺跡の新発見や市内最西端での平安時代の住居跡の発見、下清水遺跡での縄文早期、野島式土器の発見など、今回取り上げた地内だけでも青梅市の歴史を塗り変える大きな発見がありました。

（文責 鈴木晴也）

掲載した遺跡位置図(1)